



代表取締役 星野 佑

島根県松江市出身、32歳。高校卒業後、内装の世界に身を投じ、修業に入る。21歳で職長に抜擢され、28歳という若さで個人事業主として独立。法人化を果たし、現在『星野建総』の代表取締役を務めている。

早さと丁寧さを両立させ 信頼を勝ち得る内装会社



COMPANY PROFILE

株式会社 星野建総

島根県松江市東出雲町意宇南3丁目4-5

Special Interview

2009年に個人事業としてスタートし、現在は法人化を果たした『星野建総』。店舗やアパート・住宅といった民間の工事を主体に、学校や病院などの公共工事にも参加しており、スピードだけではなく、丁寧で綺麗な仕上げの内装工事で信頼を勝ち得ている。将来的には、若い世代に技術を伝え、育成していきたいという星野社長に、島崎俊郎氏がお話を伺った。

創意工夫を重ね めきめきと頭角を現す

——星野社長はこれまで、どのような道程を歩んでこられたのでしょうか。

学生時代はスポーツに熱中していました。中学・高校ではバレーボール部に所属し、特に高校の時には良い成績を取ることができたんですよ。その一方で、私は早くから、自分で何らかの事業をし

たいという気持ちを持っていました。どんな仕事をしたいかを考えた時、父が建設業の現場監督をしていたことから、身近な建設業に目を向け、学業修了後に内装の世界に入ったのです。

——実際に入ってみていかがでしたか。

何もなかったところから少しずつ形ができていき、完成した時の達成感というのは建設関係に携わる上での大きなやり甲斐となりました。物を作ることが楽し

くて、仕事に傾倒することができました。そして、21歳くらいのころには職長に任されたんですよ。

——それは早いですね。技術の必要なお仕事ですし、一人前になるのにも時間が掛かるでしょう？

一人前になるのに10年掛かると言われていますね。私の場合、独立を目標にしていたので、先輩方の技術を見て覚え、参考書を読んで勉強したりしていました。それである程度早めに技術を身につけることができたのかもしれません。そして今から8年前、20代前半の時に独立。当時は見切り発車とありますが、何とかなるだろうという感じだったのですが、幸いなことに、人に恵まれて事業が軌道に乗り、周囲の皆さんに大変良くしていただきました。

若い世代に技術を継承し 地域の活性化に貢献したい

——内装と一口に言っても、様々かと思いますが、『星野建総』さんでは主にどのようなお仕事を手掛けておられるのでしょうか。

軽量鉄骨を使って天井や壁の下地を組み、石膏ボードを貼る仕事です。学校や

病院などの公共工事に携わることもありますが、店舗であったり、住宅やアパートであったり、民間の内装の工事を任せさせていただくことが多いですね。

——同業他社もたくさんある中で、他とはここが違うというものはありますか。

この仕事には工期がありますし、スピードが大事になってきます。しかし、スピードを優先しすぎると、今度は仕上がりが今一つになってしまう。ですから、工期を守りつつ、綺麗で丁寧な仕事をするのを心がけてきました。見えない部分で手を抜いて、ということも可能ではあるのですが、私はそういうことができない性分です。皆様にご愛顧いただいているのは、そうした姿勢が、お客様からも認められているからだと、僥倖ながら思っています。

——「早く、綺麗に」という心がけが信用につながっていったわけですね。仕事を頑張ることができるモチベーションは何でしょう。

家族の存在ですね。子どももおりますし、背負うものができたことが励みになっていると感じます。独身のころのような勢いはなくとも、責任感も強くなり、粘り強くなったのではないかと。

——守るものがあるというのはやはり強

いですね。将来的にはどのように展開していこうと考えていらっしゃいますか。

現在、当社のメンバーの中では私が一番若いくらいで、現場に20代の人がいるかいないかという状況です。勿論、ベテランスタッフの経験と技術は頼りになりますし、だからこそ当社もここまで成長できたわけですが、今後は先を見据えて、若い職人さんたちも増やしたいと考えています。

——なるほど。ただ、若い方は仕事を早く辞めてしまうこともままあると聞きますし、いかに長く仕事を続けてもらえるかも課題の一つですね。

そうですね。それで、どのようにして仕事を続けてもらえるかを考えた時、まずはきちんとした環境があることが安心につながるのではないかと。そのため、法人化して事務所も建て、受け入れ体制

を整えているところです。そうして若い人を育て、技術を継承し、事業を守り立てることで、地域に貢献していきたいですね。

——それでは最後に、これから入ってこられる若い人たちへのメッセージを。

この仕事は物を作っていくことが好きな人にとってはとてもやり甲斐のある仕事になると思うのです。それに、技術を持っている、手に職を付けるということは、自分の力で独立することも可能ということ。独立したい人はその夢を叶えて、可能性をどんどん広げていってほしいですね。

——社長ご自身もそうやって独立して、現在があるわけですね。今後は社長が育てる側となって、たくさんの若者の夢を後押しして行って下さい。

(取材 / 2017年10月)

Column

学生時代は本格的にスポーツ活動を行っていた星野社長。小学校のころはバスケットボール、中学・高校のころはバレーボールを行っていたという。特に高校時代に社長が所属したバレー部は、島根県内で有数の強豪。先輩の代には県大会で優勝したこともあったそうだ。社長の代にはあまり背の高い選手がおらず、社長自身も背の高さではなかったが、アタッカーとして活躍。高さではなく、速い攻撃で攻めるスタイルで一戦一戦をものに。最終的には全国大会である「春高バレー」の手前まで進むことができた。その後、内装の世界に身を投じ、めきめきと頭角を現していった社長は、先輩たちの技術を見て覚え、参考書を読んで勉強することで、力をつけていったと語る。

2つのエピソードから窺えるのは、社長の粘り強さと、創意工夫する力だ。背が高くはないからとそこで諦めるのではなく、自身のどこに強みがあり、何を磨くべきかを考える。そうした「自分で考え、課題に取り組み力」が、社長を成功に導いていったのだろう。

After the Interview

「ご自身を評して『負けず嫌い』と語っておられた星野社長。だからこそ学生時代はバレーボールで大きな活躍をし、学業修了後に勤めた内装のお仕事でも21歳にして職長に任されるほどの技術を身につけることができたのでしょうね。現在のモチベーションはそうした気持ちよりも家族の存在が大きいとのことですが、今後も負けじ魂を発揮して、『星野建総』さんをより大きな会社へと成長させていってほしいと思います。私も応援させていただきますよ！」



島崎 俊郎